

大豆「里のほほえみ」の良質安定生産栽培の実証

要約

適期播種期間内で早めに播種することにより、「里のほほえみ」の収量等で安定生産を実証することができた。

○ 展示のねらい

「里のほほえみ」の収量及び品質(病害粒・裂皮粒・しわ粒)が安定する播種時期について展示ほを設置し検討する。

展 示 内 容

区名	供試区	対照区	備考
土づくり肥料	粒状苦土炭カル、石灰窒素、塩化加里		
排水対策	畝立同時播種による出芽の安定化		
施肥	BBなすの豆専用(5-20-20)		
播種量	4.5kg/10a		
播種日	6月21日	7月4日	

○ 主な成果

収量(坪刈調査)は供試区263kg/10a、対照区242kg/10aで対照区比108%となった。収量構成要素では一株粒数106%、一莢粒数103%、百粒重101%、大粒率+2.2%で供試区が対照区に比べ良好であった。品質はしわ粒・裂皮粒率は供試区10.5%(対照区差-4.4%)と少なく、べと病粒率9.12%(対照区差-3.65%)であった。

供試区と対照区の茎青立症状について供試区より対照区が少なく、遅播きの大豆は生育にバラツキが見られた。

播種時期による「里のほほえみ」の栽培では供試区(早播)が良く、県北地域は6月に播種することで安定生産につながると思われる。

収量調査結果

項目	収量 kg/10a	一株莢数	一莢粒数	百粒重 g	大粒率 %	しわ粒・裂皮 粒率 %	べと病粒率 %
供試区	262.5	65.9	2.29	41.5	96.3%	10.5	9.12%
対照区	242.3	62.1	2.23	41.0	94.1%	14.9	12.77%
比・差	108%	106%	103%	101%	+2.2%	-4.4%	-3.65%

※ 収量は坪刈調査、しわ粒・裂皮粒率、べと病粒率は重量比



成熟期(11/3)

○ 今後の方向性

里のほほえみについて、高品質安定生産を更に推進するため、茎の青立症状対策について検討が必要である。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部

実施場所：那須塩原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315